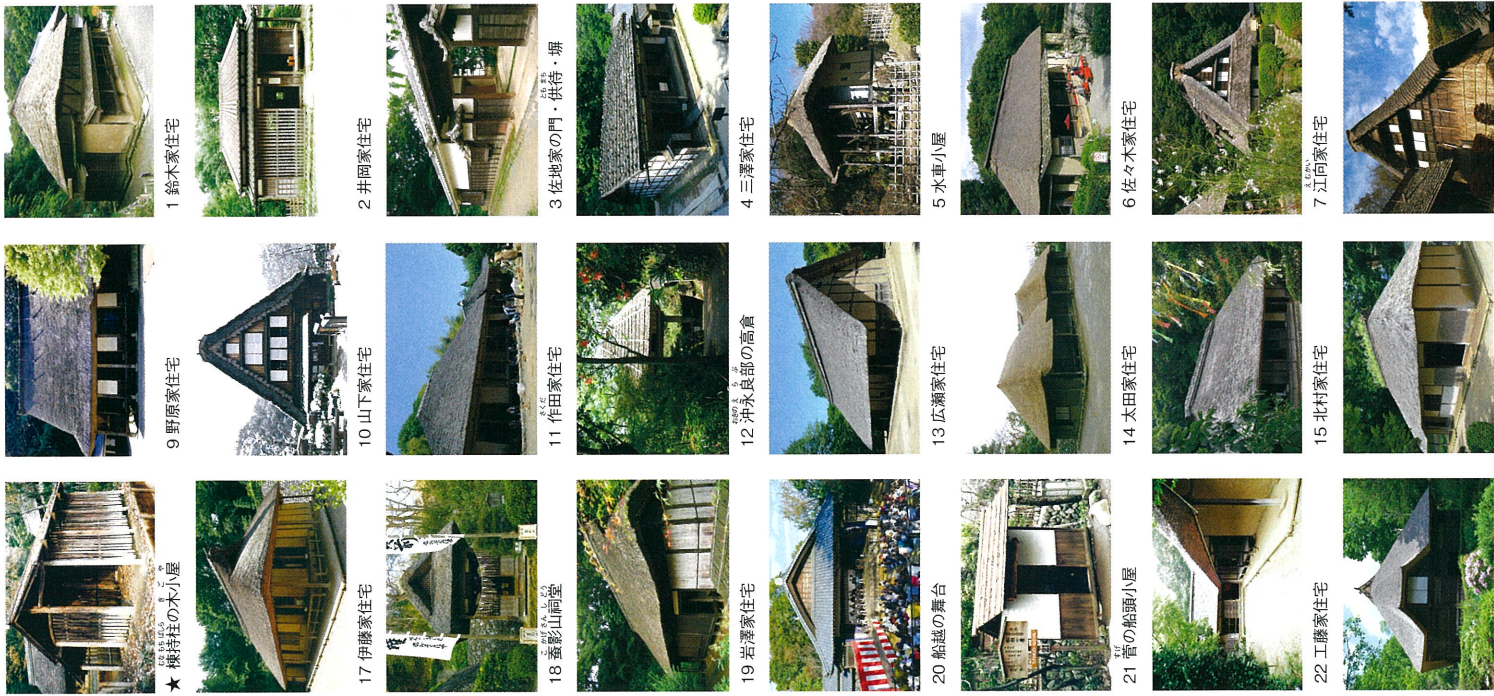
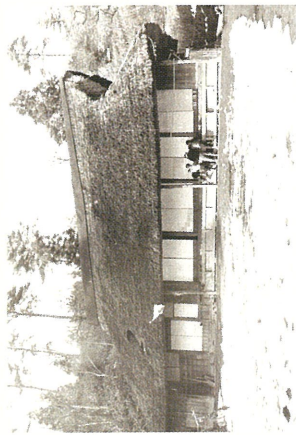






## 過去と未来を結ぶ日本民家園

川崎市立日本民家園は、急速に消滅しつつある古民家を永く将来に残すことを目的に、昭和42年（1967）に開園した古民家の野外博物館です。



日本民家園では、東日本の代表的な民家をはじめ、水車小屋・船頭小屋・高倉・農村歌舞伎舞台など25件の建物を展示しています。さらに、昔の民家生活をしのんでいただけるように、園路には道祖神・庚申塔・馬頭観音・道標などの石造物、また民家内には農具や生活用具類を展示しています。民家は生活の発展に応じてさまざまな改造が加えられます。日本民家園に移築した民家は、この原則として建築当初の古い形にもとめています。

## 展示民家

- 1 原家住宅(市) 神奈川県川崎市中原区大田町 上棟明治44年（1911）  
江戸時代の流れを汲む木造建築技術が高度に発達した明治時代後期の建物で、完成までに22年の歳月を費やした豪壮なる階建民家。
- 2 鈴木家住宅(県) 埼玉県熊谷市松川町 19世紀初期  
奥州街道の八丁目宿にあった馬宿。市に向かう馬方と馬が泊まる宿屋で、土間に内馬屋を設け、そこに十数頭の馬が繋がれた。
- 3 井岡家住宅(県) 千葉県鎌倉市高畑町 17世紀末期～18世紀初期  
柳生街道に沿って建てられていた油屋。正面に丸太格子や「あけみせ」を設けている。この家の間口は4間、それを床土と土間部分とで二分割し、縦一列の平面としている。
- 4 佐地家の門・供待・塀(市) 愛知県名古屋市中区白鳥 19世紀初期  
250石取り屋敷藩士の武家屋敷入口部分。門の形式は切妻屋根の棟門。供待は主人のお供がその帰りを待つ控え場所であり門番部屋でもある。
- 5 三澤家住宅(県) 長野県伊那市西町 19世紀中期  
伊那街道の伊那郡宿にあった茶屋。屋根は石置きの板葺き。江戸時代には船頭役を代々務めていた家柄であるため、門構えと前庭付きの式台が許された民家。
- 6 水車小屋(市) 東京都豊島区野田 19世紀中期  
車輪の直径3.6mの水車小屋。現地では「クルマヤ」という。木製の歯車装置によって、製粉・精米・糞打ちができる。
- 7 佐々木家住宅(国) 長野県佐々木郡佐々木町 享保16年（1731）  
千曲川沿いの名主の住宅。降雪量の少ない地方のため、柱や梁は比較的細い材を使用している。東側の屋根は半切妻、いわゆる「尻造り」。
- 8 江向家住宅(国) 富山県砺波市上平細島 18世紀初期  
富山県と岐阜県との境に位置する越中五箇山の合掌造り。豪雪地帯であることから柱や梁の材料が太く、また屋根の勾配が急傾斜である。
- 9 山田家住宅(県) 山形県鶴岡市桂 18世紀初期  
越中五箇山の桂集落から移築した合掌造り。浄土真宗の信仰が篤い地方のため、立派な仏壇を持ち、さらに「仏間」をも有する間取りである。
- 10 野原家住宅(県) 富山県砺波市利賀村利賀 18世紀後期  
越中五箇山の利賀集落から移築した合掌造り。梁は、傾斜地で成長した根元の曲がった大木が用いられている。屋根裏の広い空間は、養蚕や食糧、燃料を蓄える場所であった。
- 11 山下家住宅(県) 岐阜県大野郡白川村長瀬 19世紀前期  
飛騨白川郷の合掌造り。川崎市の小川町で観光料亭として活用していたものを再移築した。
- 12 作田家住宅(国) 千葉県武蔵九十九里町作田 主屋17世紀後期、土間18世紀後期  
九十九里近地引き網漁の網元の家。棟を別にする分棟型民家。棟と棟の間には大きな雨樋が設けられている。居間の梁は松の曲材を巧みに組み合わせている。
- 13 沖永良部の高倉(市) 鹿児島県大島郡和泊町城内 19世紀後期  
大い4本柱の上部に穀物を収納する場所を設け、ネズミなどの進入を防ぐようにしている。
- 14 広瀬家住宅(県) 山梨県甲州市早川上森原 17世紀末期  
切妻屋根で軒が低く、壁の多い閉鎖的な甲州民家。土間には鳥居柱と呼ばれる2本の柱が立ち、居間は板床を張らない土座となっている。
- 15 太田家住宅(国) 茨城県笠間市鹿 主屋17世紀後期、土間18世紀後期  
作田家住宅とは異なった形の分棟型民家。土間部分を釜屋と呼び、ここに馬屋も設けられている。釜屋とはカドの火を使つての炊事のほかに農作業も行われた。
- 16 北村家住宅(国) 神奈川県鎌倉市山下 貞享5年（1687）  
移築解体の際、建築年を示す墨書が発見された貴重な民家。正面の格子窓、居間部分の押板や竹すのこ床など古い特色をもつわりには開放的な民家である。
- 17 清宮家住宅(県) 神奈川県川崎市多摩区登戸 17世紀後期  
三方が土壁で塞がれ、また格子窓が土間と床土境にも設けられている極めて閉鎖的な民家。土間上部の小屋梁は、曲材を巧みに用いて組まれている。
- 18 梅持柱の木小屋(市) 神奈川県川崎市多摩区田代 大正13年（1924）頃  
薪や堆肥などの保管場所。掘立柱が特色。
- 19 伊藤家住宅(国) 神奈川県川崎市麻生区金沢 17世紀末期、18世紀初期  
入母屋造りの農家。正面の格子窓を「シンド」と呼び、獣の侵入を防ぐためのものだといわれている。居間の竹すのこ床、1間ごとに立つ柱など古い形式を持つ。
- 20 蚕影山稲堂(市) 神奈川県川崎市麻生区国土 文政3年（1820）  
養蚕の豊作を祈り、その神を祭るお堂。宮殿の両側面には養蚕の神である金色姫の苦難の物語にある、獅子・鷹・舟・庭の4場面が彫刻されている。
- 21 岩澤家住宅(県) 神奈川県豊田郡清川村姥谷 17世紀末期  
土壁と板壁を併用した上層農家。3つの部屋で構成される広間型の間取り、正面と側面につく格子窓、押板など、古い様式をとどめている。
- 22 船越の舞台(重民) 三重県志摩市土山船越 安政4年（1857）  
志摩半島の漁村にあり、歌舞伎芝居などを演じていた舞台。正面に花道、両袖に出語り、そして直後約3間（3.45m）の回り舞台を備えている。回り舞台を回転させる装置は祭場に配置されている。
- 23 菅原家住宅(国) 山形県鶴岡市松が 享和頃（1751～1762）  
旧南部領に分布する曲屋。主屋に対して曲がつた部分は馬屋となる。床上は、畳敷きの土座敷以外は全て板の間。天井は全て吹き抜けで、いわば建物全体が1室となる。
- 24 菅原家住宅(県) 山形県鶴岡市松が 18世紀末期  
出羽三山の麓から移築した妻入り農家。屋根の途中に「ソボウ」と呼ばれる曲線の美しい高窓を有している。入口には、豪雪地帯の建物の特徴であるアマヤが設けられている。

## 本館展示室

常設展示室  
古民家に関する基本的な知識を学ぶことができます。  
企画展示室  
年に2回、民具や建築に関する展示を行っています。

## 伝統工芸館(西門)

へリカチなどを染める気軽な藍染め体験や持込み染色など、伝統的な藍染めを楽しむことができる施設です。講座、ミニ展示、藍染め作品の販売なども行っています。  
※藍染め体験は予約が必要です。  
問い合わせ先 ☎ 044-900-1101



地震がきたら  
できるだけ早く古民家の外に出て、平らで広い場所に避難してください。スタッフの指示に従い、行動してください。